



赤木千佳さん(2001年卒)53回生

京都大学大学院

理学研究科博士後期課程 修了

啓明女学院高等学校は私の第一志望校ではなかったため、啓明での生活はどうかと思っていましたが、担任の先生やクラスメイトに恵まれて、とても楽しい3年間を過ごすことが出来ました。

恩師やクラスメイトが背中を押してくれたこともあり、当時の啓明では珍しく、卒業後は理系の大学に進学することが出来ました。

進学先は帯広畜産大学です。そこでは遺伝子組み換え作物について研究をしていました。修士課程では、理化学研究所の横浜キャンパスに

て研修生として研究をさせていただきました。

修士課程に進学した当初は「修士課程修了後は研究者になるために学位を取得して・・・」と考えていました。もしも、修士課程を大学で過ごしていれば、そのまま学位を取得していたかもしれません。

しかし、理研で過ごしていると研究員の頭の回転の速さや発想の豊かさに圧倒され、私には研究者としてやっていく実力はない、と感じて学位取得を諦めて就職をしました。

就職した後も学位取得を諦めたことへの後悔があり、いつかチャンスがあれば・・・と常に思っていました。

アラフォーと呼ばれる年齢になったころ「理系に進むことを諦めないで」という啓明女学院で3年間担任をしてくださった恩師の言葉を思い出し、学位取得を決意しました。

この決意をまず伝えたのは、ほかでもない啓明時代の友達です。啓明時代の友達とは今でも仲が良く、悩みや相談はまず彼女たちにしています。「学位取得、頑張っ！」と背中を押してくれた彼女たちには感謝しかありません。

京都に住んでいたこともあり、京都大学理学研究科の博士後期課程を受験したところ、有難いことに合格することが出来て、学生生活を再開しました。

2年目からは修士生の時にお世話になっていた理研の研究室で研修生として再びお世話になり、学位取得を目指しました。若いころに比べたら知力体力ともに衰えており、思うように進まないことは多々ありました。何よりも、理学分野の進歩は目まぐるしく、イチから学びなおす必要がありました。ですが、現役生では見えてこなかったこと、社会人を経験したからこそ気づけたこ

と、最新の研究について学べたことなど、「今」学生に戻ったからこそ得ることが出来た瞬間がたくさんあります。

3年では学位取得はできませんでしたが、4年で学位取得をすることが出来ました。

これから理系への進学を考えていらっしゃる啓明学院在学の皆さんは、私が在学していたころよりも理系に進みやすい環境が整っていると思います。そのことに感謝をして勉学に励んでください。

また、卒業生の皆さんは、勉強を再び始めるには遅すぎるということはありません。いつからでも学びなおすことはできます。

諦めてしまった夢を再び追いかけてみるのも良いのではないのでしょうか。

言葉や口先だけではなく、行動で示すことは容易くはないことです。

しかし、一歩足を出す勇気を持てば夢を追いかけることはできます。

これは私を含め皆に当てはまることだと思いますが、昔抱いていた夢そのものを追いかけることが難しくても、形が変わっていても夢は持ち続けているはずです。

働いていたり子育てや介護をしていたりすると、影が薄くなりがちで埋もれてしまう「夢」をいつでもいいので掘りだして形にしてあげてください。

いつか自分の人生を振り返るときが来た時に悔いのないように。

きっと夢をかなえようとしている私たちを神様は見守り、夢への道に光を照らしてくださいませ。